

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

がん患者の心理評価・サポートシステム開発・テキスト作成に関する研究

研究分担者 佐藤 眞一

大阪大学大学院 人間科学研究科 教授

研究要旨

在宅がん患者の栄養サポートに関連する個人の心理的要因を評価するために、心理的苦痛、QOL、心理的適応、コーピング、性格等に関連する7種類の心理スケールを検討した。

A．研究目的

在宅がん患者の栄養サポートへの介入と効果に関連する個人の心理的要因を評価するために、心理スケールの検討を行った。昨年度の検討項目の視点に加え、新たに心理的適応、QOL、コーピングの心理スケールを検討した。

B．研究方法

検討した心理スケールは以下の通りである。

1. つらさと支障の寒暖計(Distress and Impact Thermometer : DIT)
2. がん患者の心配評価尺度 (Brief Cancer-Related Worry Inventory : BCWI)
3. 日本語版 POMS(Profile of Mood State)
4. EORTC QLQ-C30 (The European Organization for Research and Treatment of Cancer QLQ-C30)
5. Mental Adjustment to Cancer (MAC) scale
6. Tri-axial Coping Scale 24-item (TAC-24)
7. 日本語版Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)

C．研究結果

つらさと支障の寒暖計(Distress and Impact Thermometer : DIT)は、がん患者の適応障害およびうつ病のスクリーニングツールである。気持ちのつらさ(「0:つらさはない」～「10:最高につらい」)および気持ちのつらさの生活への支障の程度(「0:支障はない」～「10:最高に支障がある」)の2項目から成る。いずれの項目もカットオフ値以上の場合にスクリーニング陽性と判断される。簡便な尺度ではあるが、Hospital Anxiety and Depression scale(HADS)と同程度の適応障害およびうつ病のスクリーニング性能(感度・特異度)があることが報告されている。

がん患者の心配評価尺度 (Brief Cancer-Related Worry Inventory : BCWI) は、がん患者のがんと関連した心配事の内容や大きさを評価する心理尺度である。15項目3因子(将来に対する心配・身体に関する心配・社会や対人関係に関する心配)から成る。がんに関連する心配事が、不安や抑うつ症状とは区別されることも報告されている。

感情および気分を評価する心理尺度として、日本語版POMS(Profile of Mood State)を候補として挙げた。この尺度は、患者や一般集団を対象としたものであり、これま

でがん患者を対象とした研究でよく用いられている。65項目から成り、測定内容は抑うつ-落込み、活気、怒り-敵意、疲労、緊張-不安、混乱である。

がん患者のQOLを評価する尺度としてEORTC QLQ-C30(The European Organization for Research and Treatment of Cancer QLQ-C30)を候補とした。この尺度は、30項目からなり、機能スケール(身体・役割・認知・情緒・社会・全般的QOL)と症状スケール(嘔気嘔吐・倦怠感・呼吸困難・痛み・睡眠障害・食欲不振・下痢・経済)の大きく2つの内容を評価する。

Mental Adjustment to Cancer(MAC) scaleは、がんに対する心理的適応を評価するための尺度である。がんを患ったときの気持ちや行動について「1:全く違う」～「4:全くその通りだ」の4件法で尋ねる。40項目から成り、下位尺度はFighting Spirit、Helpless/Hopeless、Anxious Preoccupation、Fatalism、Avoidanceである。

コーピングを測定する尺度として、Tri-axial Coping Scale 24-item (TAC-24)を検討した。この尺度は、対処のスタイルを問うものである。24項目、8下位尺度(情報収集・計画立案・カタルシス・放棄/諦め・責任転嫁・回避的思考・肯定的思考・気晴らし)から成る。中高年向けに再検討された12項目のTri-axial Coping Scale 24-item revised for elderly (TAC-24E)も候補として挙げた。

性格特性を評価する尺度として、日本語版Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)を検討した。これは、Big Fiveパーソナリティの5つの特性(外向性・協調性・神経症傾向・勤勉性・開放性)を測定するこ

とを試みる尺度である。10項目から構成されるため、患者への負担が少ないという利点がある。

#### D . 考察

昨年度検討した12スケールには、心身機能の総合的評価尺度3種類、精神的健康度を測定する5種類、行動傾向・性格特性を測定する2種類および食生活スタイルを測定する1種類が含まれていた。

今年度は、さらに、心理的適応を測定する4種類、QOLを測定する1種類、ストレスコーピングを測定する2種類および性格特性を測定する1種類を検討した。

がん患者の生活適応度を測定するためのテストバッテリーを検討することが課題となる。測定に当たっての信頼性と妥当性の高い尺度を組み合わせるだけではなく、患者の負担をより少ないものにする簡便性等の視点も重要となるであろう。

#### E . 結論

在宅がん患者の栄養サポートへの介入と効果に関連する個人の心理的要因を評価するために、昨年度の12スケールに加えて、本年度は、心理的適応、QOL、ストレスコーピングに関する7スケールを検討した。がん患者の生活適応度を測定するためのテストバッテリーを検討することが課題となる。

#### G . 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

( 予定を含む。 )

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし